

事務事業マネジメントシート（21年度実績と22年度計画）

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 26 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名		都市公園施設修繕事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連										
総合計画体系	政策	1	人々が安心して暮らせるまちづくり			所属部	都市建設部	課長名	辻 賢一郎							
	施策	6	計画的な土地利用の推進			所属課	都市計画課	担当者名	鍋田 将文							
	基本事業	16	快適な住環境の整備			所属班	都市計画班	(内線)	2247							
予算科目	会計	1	款	8	項	4	目	2	事業連番	10137	法令根拠	都市計画法・都市公園法・都市公園条例・施行規則	成果優先度評価結果		コスト削減優先度評価結果	11
終了、開始年度	☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始		事業期間		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 s51 年度) 期間限定複数年度 (~ 年度)											

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	都市公園に設置する遊具、外灯、施設等の新設・修繕等を行う。 公園に設置された施設については、年数の経過とともに老朽化や故障もあるので修繕をすることで維持をおこなっている公園も設置から年数を経過しており対象となる施設は増加傾向である。いたずらも多い。
【業務の流れ】	現地確認・積算・業者選定・決定・契約・打合せ・検査・支払い
【主な予算費目】	11-4施設修繕費
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	公園数も多く修繕対応が必要な施設も増加傾向である。予算の都合もありすぐに対応できない場合は使用禁止措置等が長引くことがあり市民に迷惑をかけることがある。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)

各公園の遊具修繕、施設(水道・トイレ・照明灯等)修繕

22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)

各公園の遊具修繕、施設(水道・トイレ・照明灯・外柵等)修繕

④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標

⇒ア 修繕公園数

(単位)

箇所

イ

(単位)

箇所

② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

利用者

⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標

⇒ア 全公園数

(単位)

箇所

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

適正に管理できる

安全快適に利用できる

⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標

⇒ア 苦情・要望数

(単位)

件

*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠

苦情要望の件数は管理状況を示すバロメータとしても有意義であると考えたため

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込
④ 活動指標	ア	箇所	20	40	40	40	40	40	
	イ							3	
⑤ 対象指標	ア	箇所	142	148	151	154	154	157	
	イ								
⑥ 成果指標	ア	件	5	11	5	8	5	5	
	イ								
事業費 投入量	財源内訳	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		繰入金	千円						
		一般財源	千円	2,100	6,797	9,096	8,018	9,100	9,100
	(A) 事業費計		千円	2,100	6,797	9,096	8,018	9,100	0
人件費	(A)のうち指定経費		千円						
	(A)のうち時間外、特勤		千円						
	正規職員従事人数		人	3	4	4	4	4	
	延べ業務時間		時間	400	570	550	560	550	
トータルコスト(A)+(B)	(B)人件費計		千円	1,588	2,280	2,189	2,229	2,189	0
			千円	3,688	9,077	11,285	10,247	11,289	0

総トータルコスト
全体計画
～ 年度

(期間限定複数年度のみ記載)
0
0
0
0

合志市

事務事業名	都市公園施設修繕事業	所属部	都市建設部	所属課	都市計画課
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部(SEE)

*原則は21年度の後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 平成21年度に経済対策事業と本事業により遊具の点検修繕をかなり行うことにより改善が進んだこともあり22年度も達成見込みである。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 限られた予算・人員で行っているが、手法の検討によりより成果を求めることも可能である
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 公園の施設は特殊なものもあり専門業者との連携が必要である
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 公園数は増加しており、施設の老朽化も顕著であるため、事業費は増加傾向にある
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 実用最小限の人件費である
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 苦情要望の件数は管理状況を示すバロメータとしても有意義であると考えたため
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 市が管理する施設であり日常的な点検は地域住民で行うなどの分担を行っているが修理については専門的な分野でもあり費用負担の面からも適正である

3 評価結果の総括(SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

平成21年度に経済対策事業と本事業により遊具の点検修繕をかなり行うことができ施設改善が進んだ。この後も継続して行っていくことが必要となる。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☒ 事業のやり方改善(有効性改善)

☐ 事業のやり方改善(効率性改善)

☐ 事業のやり方改善(公平性改善)

☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持			
	低下			

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策